中国地域産学官コラボレーションセンター 主要活動報告

- ▶『中国地域産学官アクションプラン』の総合的推進
- ▶ 『中国地域産学官コラボレーション会議』事務局

平成19年6月8日 第7回 中国地域産学官コラボレーション会議

目 次

■ 平成18年度 活動報告

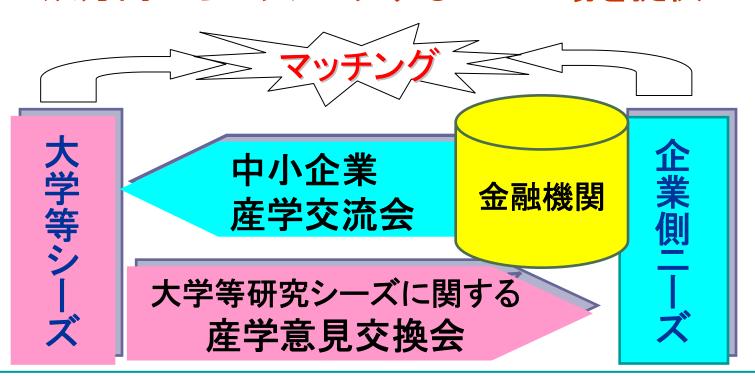
■ 平成19年度 活動計画

平成18年度 活動報告

活動の柱	主要活動
A. アクションプランに基づく 産学官連携活動の推進	①第6回中国地域産学官・クラスターコラボレーションシンポジウム開催
B. ちゅうごく産業創造センター/中国地域ニュービジネス協議会との連携	②金融機関との連携による中小企業産学交流会開催 ③大学等研究シーズに関する産学意見交換会開催 ④中小企業人材育成MOTセミナー開催 ⑤コーディネータ合同会議(勉強会・交流会)開催
C. 大学生等による新事業 の発掘・育成・支援	⑥第5回キャンパスベンチャーグランプリ中国の開催 ⑦大学ベンチャー状況調査と事業化支援施策モデルの検討
D. 情報発信機能の継続、 その他	⑧産学官連携ポータルサイトの発信 ⑨メールマガジン(コラボNEWS)の発信 ⑩県主要コラボ会議メンバーとの「意見交換会」開催 ⑪各種シンポジウム等での産業界との「意見交換会」開催 ⑫大学知財本部・TLO実態調査

- ②. 金融機関との連携による中小企業産学交流会
- ③. 大学等研究シーズに関する産学意見交換会

▶大学等の研究シーズと企業側ニーズを、 双方向からマッチングするための場を提供



②. 金融機関との連携による中小企業産学交流会

▶日 時:平成18年11月27日(月)

▶場 所:メルパルクHIROSHIMA

▶参加者:中国地域の金融機関取引先企業43社, 大学等研究機関17機関



参加した研究機関が26ブースを 開設し、1回20分の個別面談を計 6回実施。

開催後3ヶ月目のフォローを実施。

③. 大学研究シーズに関する産学意見交換会-1

▶テーマ:農工連携

▶日 時:平成18年12月21日(木)

▶場 所:ピュアリティまきび(岡山市)



植物工場に関する大学・企業の研究・技術シーズや農工連携の先進事例を紹介した後、産・学・官それぞれからの参加者による意見交換会を開催

③. 大学研究シーズに関する産学意見交換会-2

▶テーマ:安心・安全

▶日 時:平成19年1月12日(金)

▶場 所:広島工業大学



新設された情報学部健康情報学科の有する技術シーズ を紹介した後,参加者による 意見交換会を開催

④. 中小企業人材育成セミナー 技術経営(MOT)を活用した持続的成長へのアプローチ

▶導入編

平成18年11月7日(火)~8日(水)

- ・長期目標の実現に向けた自社分析の必要性を学習
- ・藤光蒲鉾の成功事例をSWOT分析、 グループ討議して発表



▶中級編

平成18年11月21日(火)~22日(水)

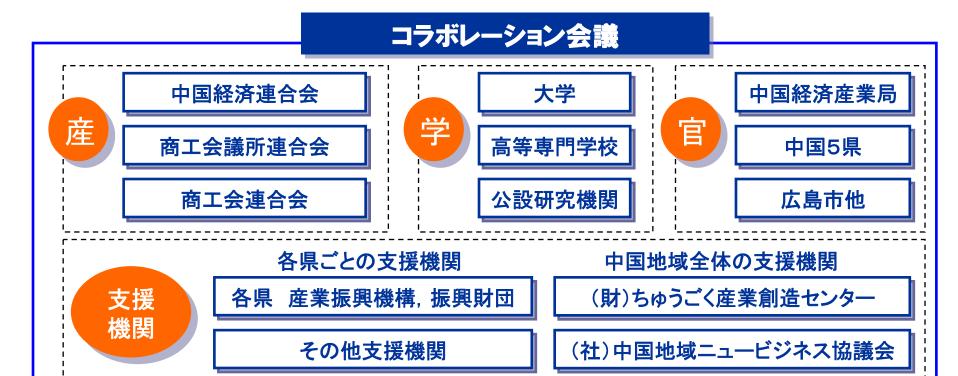
導入編で学んだ分析手法を事例問題を交え、総合的に学習

>実践編

平成19年1月23日(火)~24日(水)

- 技術を核にして実際に新事業を創出するための考え方を学習
- ・具体的事例について考察・討議

⑩. 各県主要コラボ会議メンバーとの意見交換会開催



各県で意見交換

コラボレーションセンター(コラボレーション会議事務局)

中国経済連合会

広島大学

中国経済産業局

独立行政法人産業技術総合研究所

①. 各種シンポジウム等での産業界との意見交換会開催

▶ 各種シンポジウム、セミナー等の開催に併せ、 産・学・官による意見交換会を開催し、産業界 からの要望を幅広く聴取する。





平成19年度 活動計画

活動の柱	主要活動
A.地域プロジェクトに貢献	①ニーズ主体の事業化プロジェクト推進
する産学官共同研究実	②シーズ主体の事業化プロジェクト推進
用化の推進	③金融機関との連携による「産学金交流会」開催
B.コーディネータ連携強化	④コーディネータ合同会議(勉強会・交流会)開催
C.産学官連携活動の強力	⑤ アクションプランの見直しに向けた検討
な支援体制	⑥各県主要コラボ会議メンバーとの「意見交換会」開催
	⑦各種シンポジウム等での産業界との「意見交換会」開催
	⑧「地域イノベーション創出2007inしまね」開催
D.新たな産業の中核となる	⑨キャンパスベンチャーグランプリ中国の開催
大学発ベンャー創出育成	⑩大学発ベンチャ-ネットワ-クや効果的支援ツ-ルの形成
	①有望な大学発ベンチャー個別支援
E.知的創造サイクル形成	⑫TLOと大学知財本部の技術移転に係る知財活用ネット
	ワーク構築検討

①. ニーズ主体の事業化プロジェクト推進

【目的】

- 事業化を見通し、その実現のために必要となる課題を連携活動により解決する。
- ・従来の理工系高度先端分野に主体を置いた連携活動を、 さらに農業等地域特性にあった分野へ拡大する。

【事業内容】

プロジェクト推進メンバーを募り、ニーズとシーズを把握し、 研究開発から事業化までの展開を図る。

②. シーズ主体の事業化プロジェクト推進

▶ビジネスプランに基づく共同研究による 新事業の創出

【目的】

研究シーズのみならずビジネスプランに基づく共同研究により、製品化・事業化への成功確率を高める。

び来〕 研究シーズ マッチング 共同研究 研究成果 製品化・事業化 フォロー不足 「新たな取り組み」 製品イメージ 市場調査 ビジネスプラン作成 研究シーズ マッチング 共同研究 研究成果 製品化・事業化 新事業

おわりに

ご清聴ありがとうございました。

